



日が段々長くなりましたが、まだまだ寒い日々が続いています。うっかり風邪をひかないように気をつけましょう。

県西農林事務所 経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)
Tel:0296(24)9206
Fax:0296(24)6979



「桜川市産小麦 ユメシホウを食べよう！！」食育講座を開催

2月6日、桜川市新規作物研究会が地産地消活動の一環として、猿田小学校5、6年生を対象に行いました。この取り組みは市内で栽培されているパン用小麦「ユメシホウ」を食べて、その魅力を知ってもらうために同研究会が開催しているものです。

児童達は研究会員の指導を受けながら野菜を切り、小麦こねて、ピザとひつまみ汁（すいとん）を作りました。生地を作り、会員が育てた様々な野菜をトッピングし、石窯で焼いたピザ、野菜たっぷりの熱々のひつまみ汁は、とてもおいしく、何杯もおかわりしていました。食べた感想を聞くと、「近くでこんなにおいしい野菜があるなんて知らなかった。ピザに色々な野菜をのせて食べてみたい」、「来年もピザを作るのが楽しみ」といった声が聞かれ、とても満足した様子でした。それを聞いた研究会員の充実感いっぱいの表情がとても印象的でした。



農業学園生、梨の剪定技術を学ぶ ～農業学園果樹（梨）講座～

1月28日、筑西管内若手の梨農家5名が農業学園「果樹講座（梨）」で梨の冬期管理（剪定）を学びました。今回の講座では、まず下妻市の先進農家で冬期管理について話を聞き、その後、受講生全員で幸水1樹を実際に剪定しました。受講生の中には、今回初めて梨の樹の剪定を行う人もいましたが、「実際に作業を行いながらの講義であり分かりやすかった」、「自分の家の樹も剪定してみようと思う」と、実習はとても好評でした。

今年度の農業学園は3月で終了しますが、次年度も講座を開催します。興味のある方は、筑西普及センターまでご連絡ください。



トルコギキョウ現地検討会開催 ～1枝1枝、手間ひまかけます、トルコギキョウ～

2月6日、JA北つくば花き部会はトルコギキョウ現地検討会を開催しました。栽培全ほ場を巡回することで、栽培管理の確認と情報交換を行いました。作型は、3月から7月出荷の見込みのものです。参加した生産者は、栽植密度やマルチの色、換気方法、長日処理など、それぞれのほ場の工夫している点を確認し、自分のほ場の生育と見比べることができたようでした。

今後は、1本・1枝・1花ずつ、手間ひまかけた管理が必要となります。当部門では、産地として長期出荷していけるよう、引き続き支援していきます。



イネ縞葉枯病について理解を深める

2月12日、田谷川協業組合との共催でイネ縞葉枯病講習会が開催されました。講師に病害虫防除所と農業研究所の担当者を招き、イネ縞葉枯病の発生動向、特徴と防除対策についてお話いただきました。今年も被害が拡大する見込みである、移植時の箱剤施用により減収程度が抑えられる、地域で協力して防除を行う事が大事であるとお話いただきました。また、当方から管内での発生状況を紹介しました。活発な質疑も行われ、講習会を通してイネ縞葉枯病防除に対する理解を深めることができました。



ヒメトビウンカの防除を ～イネ縞葉枯病予防のために～

イネ縞葉枯病はヒメトビウンカが媒介するウイルス病です。発病すると葉が黄変、こより状に枯れ、穂が奇形や不稔になり減収します。発病してからの治療法はないため、ヒメトビウンカを防除して感染を防ぐことが重要です。移植時に薬剤を苗箱施用することで減収を抑えられることができます。詳しい防除対策は「農業いばらき」1月号をご覧ください。JA または普及センターにお尋ね下さい。



普及員のひとりごと ～野口 孝夫～

中学2年生の今頃、大雪がありました。月日が経つのは早いもので、そのとき以来の大雪になりました。そして、今年はずいぶん還暦を迎えることとなってしまいました。夢と希望が沢山あったはずだが……。夢いっぱい若い人がうらやましい。「後悔先に立たず」つくづく思う今日この頃であります。

編集後記

「おもてなし」で有名な真壁のひなまつり。一度も行ったことがないので、今年行ってみたいと思います。(川崎)